

好きこそものの上手なれ

回胴倒錯者

— PACHISLO FREAK —

混沌

その店を出しているのは私とWさんの2人だけ。そしてその店に来ている客もその2人だけだ。この状況で判断できるのは、確実に店は赤字ということだ。しかしそんなことなど、私たちには関係のないこと。唯一のその男性店員も度重なるメダル補給が不快になってきたのか、数を重ねる度に顔の表情が強張っていくのが容易に見て取れる。

何回目のメダル補給なのかは分からないが、それは突然やつてきた。いつものように呼び出しランプにて店員を呼ぶ。暫く後に現れたその店員の手にはなぜかメダルを所持していない。

「メダル切れなので補給お願いします」
「……。」
その私の発言を完全に無視し、その店員はおもむろに台を開け、電源をパチッと落とした。そして隣の台もWさんが着席しているにもかかわらず、半ば強引に開け、有無を言わず電源を落としたのだ。え？なにここと？意味不明なままその店員の行動を凝視していると、今度はポケットから小さなフダを出し、そのフダをその2台のパネル部分に立て掛けたのである。そのフダはパチンコでしか見たことがない、懐かしいフダだった。そのフダの名前は「打ち止め」。さすがにこのときはやはり、懐かしいなあ……などと悠長に考えることはなく、即座に店員

に問いつめていた。

「打ち止めって？」
店員は台の上に刺さっているフダを指差して言う、
「ほら、ここに『新台』ってフダが刺さっているでしょう」
「それと打ち止めとどういう関係が？」
「いや、だからね、新台でよく出るから、打ち止めもありますよって意味でしょう。」
「……？帰ります。」

かなり無理やりのさつき適当に考えただろうと思われるルールに憤りや呆れが混じったなんとも言えない感覚に襲われたが、店のルールだから仕方がない。3人で囲まれたその空間は、やりきれないような、気まずいような、なんともいえない重苦しい空気がどんよりと充滿していった。

驚き

その店員は仏頂面で獲得した合計4箱のメダルを運び、計数機に流し入れた。私たちはその店員の表情に半ば呆れ、怒りたいのはこちだろうと思いつながらそのカウントされていくメダル枚数をじつと見つめていた。

計数機の表示が4000を少し超えて停止した。ふと周りを見渡すが、いつの間にかさつきの店員の姿がない。仕方なく自分で発券ボタンを押し、レシートを取り出すと、景品カウンターに向かった。N君からのこの電話で同店の閉店を知り、多数の「驚き」を提供してくれた同店だったが、今回の閉店劇は、わたしの損失を被る危険があります。言い換

にとつて4度目の「驚き」とはならなかったのである。

だろうと考えていたのでその交換率にかなりの衝撃を受けた。うわさには聞いていたが、本当にこの交換率が存在していたなんて。この店で3度の驚きがあった。コンドルはまだ現役だったこと、スロットにも打ち止めがあったこと(無理やり突如決めた様子ではあったが)、10枚交換を目の当たりにしたこと。これらの出来事は私のスロット仲間には伝わり、N君もその話を聞いた二人だった。それから数週間が経過した頃、N君から電話があった。

N君「例のコンドルの店行ったんやけど」
私「お、まじで。おもしろい店やろ？コンドルあった？」
N君「閉店してた……。」
私「いや、それ実は営業中やつて！」
N君「おっさん掃除してへんだし、ドアも無理やり開けようとしたけど」

A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも副収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕を振るっている。目押しレベルはスイカの種まで直視できるほどの異常っぷり。

パチンコと玉

たまにはパチンコのことにも触れてみたいと思います。
私は実のところ、あまりパチンコは打ちません。やたらと長いリーチ演出が受け付けられない(平気な顔して外れるから)、ハンドルを持つているだけというのが退屈だし、大当たり中は席を外せない(最近の機種は大丈夫なものもある)。その他様々な理由から、スロットのほうがしっくりくるからです。さらに最近ではパチンコ玉が丸いという特性を、最大限に活かしていいなと思います。今のパチンコの重要なポイントといえば、スタートチャッカーと大当たりアタッカーへの入りやすさです。たしかにこれらも玉が丸いのを活かし、釘でその道筋を調整しています。
過去に「ミサイル7-7-6D(タイト1)」という機種がありました。この機種は玉が丸いという特性を最大限に活かした、まさにパチンコの中のパチンコといえると思います。大当たりまでの道順にはデジタルと言ったものは存在しません(実際には大当たり時にデジタルは回るが、大当たり確率、出玉数などには全く干渉しない。ラッキーナンバー制のためのデジタルかな？)適当に打つてはほぼ勝つことは不可能で、通常時から大当たり中まで、常に神経を尖らせて打たないと、かな



ミサイル7-7-6D(タイト1)
3分の1の確率なのに私は21発連続ハズシという驚異的な記録を持つ(涙)

リーチが来るのです。それはデジタルではなく、完全なアナログです。なので、デジタルでスパーリーチが外れたときよりも、断然諦めもつくし、納得もできるのです。大当たり中も、ボーッとハンドルを持つているだけでなく、いろいろと駆使した球さばきが必要なので飽きません。

今の時代は液晶デジタルの競い合い。おかげでその技術は過去からは考えられないくらい進化しました。やはりそれでも私はもう少しメーカー側に、パチンコ玉が丸いということをお願いしてほしいのです。スロットの進化を見続けてきて、ミリオンゴッドが出たときに私は思いました、スロットのルールがデジタルになる日が来るんだな。そして既にルールはおまけ程度という機種がちょくちょく出てきました。パチンコにも同じ現象が見られます。液晶が派手な演出をする、それがメインで玉の丸みなどおまけ程度。その存在価値は確実に薄れていっています。はたして、未来のパチンコではあの銀色に輝く丸い玉に触れることができるのでしょうか？その玉さえも、デジタル化されてしまえばもうでなりません。未来のニーズとはそういうものかもしれません。それでも私は一つ一つの銀玉が思い通りに個性あるアクションを繰り広げる、それらを最大限に活かした機種をこっそりと心待ちにしているのです。